

## 研究・調査報告書

|   |             |                     |
|---|-------------|---------------------|
| 分類番号  | 報告書番号       | 担当                  |
| A-73  | 14-029      | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| <b>題名 (原題/訳)</b>  |             |                     |
| <p>Association between alcohol consumption and systolic ventricular function: a population-based study.<br/>                     アルコール消費と収縮期心室機能との関連：地域住民をベースとした研究</p>  |             |                     |
| <b>執筆者</b>  |             |                     |
| Yousaf H, Rodeheffer RJ, Paterick TE, Ashary Z, Ahmad MN, Ammar KA.   |             |                     |
| <b>掲載誌</b>  |             |                     |
| Am Heart J. 2014 Jun;167(6):861-8. doi: 10.1016/j.ahj.2014.02.014.  |             |                     |
| <b>キーワード</b>  | <b>PMID</b> |                     |
| 飲酒量、左室収縮能、地域住民  | 24890536    |                     |
| <b>要 旨</b>  |             |                     |
| <p><b>目的：</b><br/>                     適度な飲酒は心不全の減少と関連している。飲酒と左室収縮能との関連を評価する地域住民をベースとした研究はない。</p> <p><b>方法：</b><br/>                     地域住民をベースとし、ランダムに抽出した 45 歳以上の 2,042 人を対象に、自己記入方式の質問票により飲酒量を評価した。飲酒量別に非飲酒者、過去飲酒、現在飲酒の軽度（1 日 1 杯未満）、中等度（1 日 1-2 杯）、高度（1 日 2 杯以上）のカテゴリーに分類した。収縮期能は心エコーで評価した。</p> <p><b>結果：</b><br/>                     非飲酒者 182 人、過去飲酒者 309 人、現在飲酒の軽度 1,028 人、中等度 251 人、高度 146 人の中で、38 人の収縮機能不全を同定した。飲酒量と中程度の収縮不全(左室駆出率(LVEF)40%以下)には U 字型の関連が認められた、すなわち、軽度飲酒者で 0.9%、高度飲酒者で 5.5%、高度飲酒者に対する軽度飲酒者のオッズ比は 0.14(0.04-0.43)であった。LVEF50%未満あるいは 50%以上においては飲酒量と収縮期能の間には関連は認めなかった。</p> <p><b>結論：</b><br/>                     飲酒量と LVEF の間には U 字型の関連が認められた。軽度飲酒者（1 日 1 杯未満）において中等度の収縮不全(左室駆出率(LVEF)40%以下)のリスクが最も低かった。この知見は飲酒量と心血管疾患の罹患率との関連と一致している。</p> |             |                     |